

経営比較分析表/団体全体（令和4年度決算）

岡山県 総社市

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	2,000	極小規模	1	454
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	88.2	19	2,000	非設置	

グラフ凡例

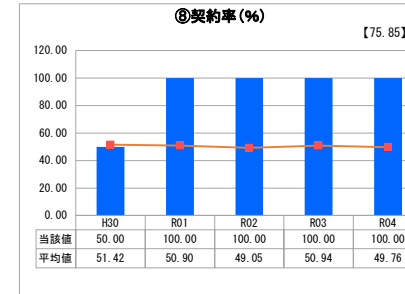
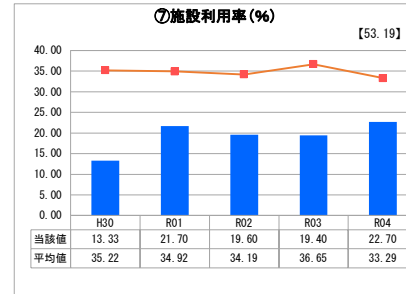
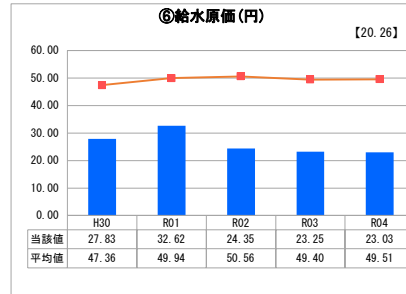
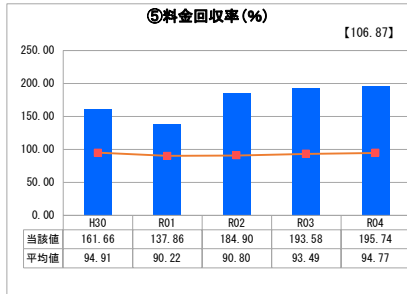
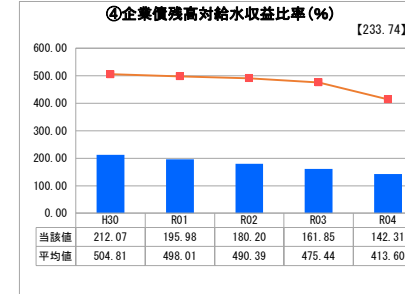
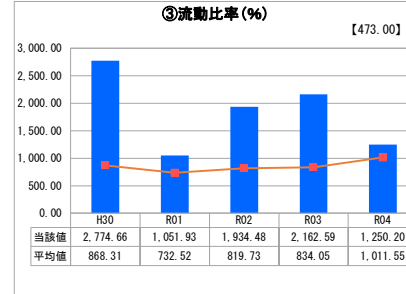
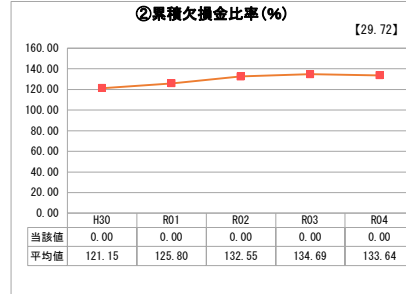
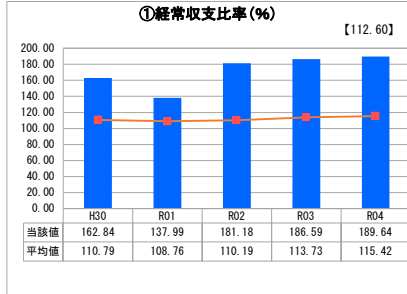
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

分析欄

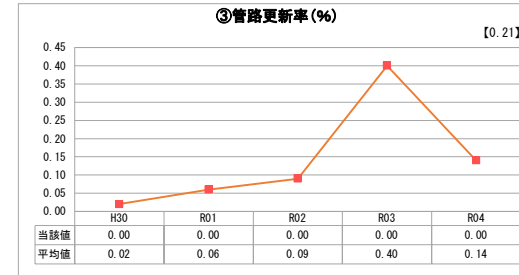
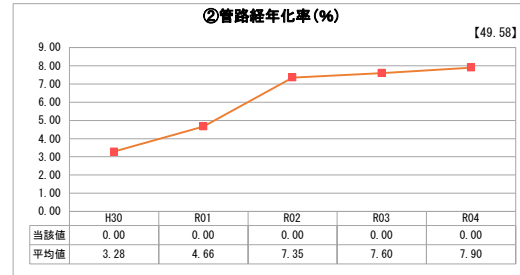
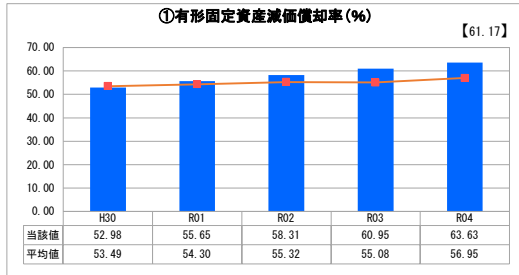
1. 経営の健全性・効率性について

「④企業債残高対給水収益比率」は類似団体や全国平均よりもかなり低くなっており、引き続き企業債残高の抑制に努めていく必要があります。
 「⑤料金回収率」がR4年度においても全国平均及び類似団体を上回っており、現在のところ経営の健全性や効率性は確保されているものといえます。
 「⑥給水原価」については、全国平均より高い数値になっていますが、類似団体より低い数値になっており、効率的な経営ができていると考えられます。
 「⑦施設利用率」については、類似団体や全国平均を下回っており、今後も一日平均配水量の増加が望める場合には、施設規模の見直しを検討する必要があります。
 「⑧契約率」については、令和元年度以降100%であり、適正な状況と考えられます。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



2. 老朽化の状況について

これまでのところ耐用年数を経過した管路はありません。平成26年度を最後に管路の更新は行っており、今後も管路更新の必要性について計画的に考えていく必要があります。

全体総括

現在のところ経営の健全性や効率性は確保されているものと言え、引き続き安定した経営に取り組む必要があります。